



ロッキーマウンテンオーディオフェスト見聞録

株式会社スタート・ラボ

小室 弘行

1. はじめに

皆さんは ”RMAF” という言葉を聞いたことがありますでしょうか？

すぐに“ロッキー・マウンテン・オーディオ・フェスト(Rocky Mountain Audio Fest)”と答えられる方はかなりのオーディオ通かもしれません。アメリカでオーディオに関するショーといえば、年明けすぐにラスベガスで開催される『T.H.E. Show (The Home Entertainment Show)』が有名でしょうか。ちょうどコンシューマーエレクトロニクスの見本市『Consumer Electronics Show (CES)』と同時期に、近くのホテルで開催されていますので行ったことのある方も多いと思います。ホテル一棟ほとんどがハイエンドオーディオメーカーのデモルームとなり、様々なオーディオ機器を実際に見たり聴いたりできるのでオーディオ好きにはたまりません。

一方『ロッキーマウンテンオーディオフェスト(以下 RMAF)』はコロラド州デンバーで開催されています。アメリカは国土が広いので4つのタイムゾーンに分かれています。コロラド州デンバーはショーの名前の由来でもあるロッキーマウンテン近くということで“マウンテンタイム”というゾーンに属しています。日本との時差は16時間(デイトライトセイビングの時期は15時間)です。



直近では2010年10月15～17日の3日間、デンバーの、実はダウンタウンではなくテックセンターという企業が集まっているエリアのマリオットホテルで行われました。

たまたまショーに行ったことを編集担当の方にお話ししたら、ぜひ本誌でご紹介いただきたいと依頼されました。ちょっと時間はたっしてしまっていますが、今回は“ロッキーマウンテンオーディオフェスト(以下 RMAF)”についてご紹介したいと思います。

2. RMAFの歴史と現在

RMAFの第1回は2004年、地元のオーディオソサエティによって開催されました。コロラドオーディオソサエティは長年、ハイエンドオーディオをもっと多くの人に紹介したいと考えており、地元でオーディオショーを行うことでその目的が叶うのではないかとRMAFが企画・開催されたそうです。そのために多くのボランティアの協力がありました。

ショーの初日、プレス向けのプレミアが話題を呼び新聞やインターネットを通じてたちまちRMAFのニュースが広まりました。初回とはいえ60以上の会社が出展し、またホテルでのデモとは思えない音の良さに参加者は満足しました。ボランティアによるアットホームでフレンドリ

一なサポートも評判が良かったようです。またパトリアバーバラによるライブも行われたそうで、会場の盛り上がりはもちろん、その模様は地元のジャズ FM 局でも放送され多くのリスナーに届けられました。

このような経緯で始まった RMAF ですが、年を負うごとに出品者数・来場者数は増えていき、現在ではオーディオファイルの間では当然のように知られるオーディオショーになったようです。

2010 年は 300 以上のメーカーが 160 以上の部屋にわかれてデモを行っていました。ちょっと細かいですが、下図のフロアマップを御覧ください。左側上部はコンベンションセンターの建物、左側下部は右写真にあるホテル棟です。ホテル棟は 4F と 5F がデモに使われていました。また右側はコンベンションセンターに隣接するタワー棟で、中 2 階、2 階、8 階～11 階までの全 6 フロアがショーのために使われていました。マップの中の黒い部分が出展社やデモルームなので、その規模の大きさはおわかり頂けると思います。

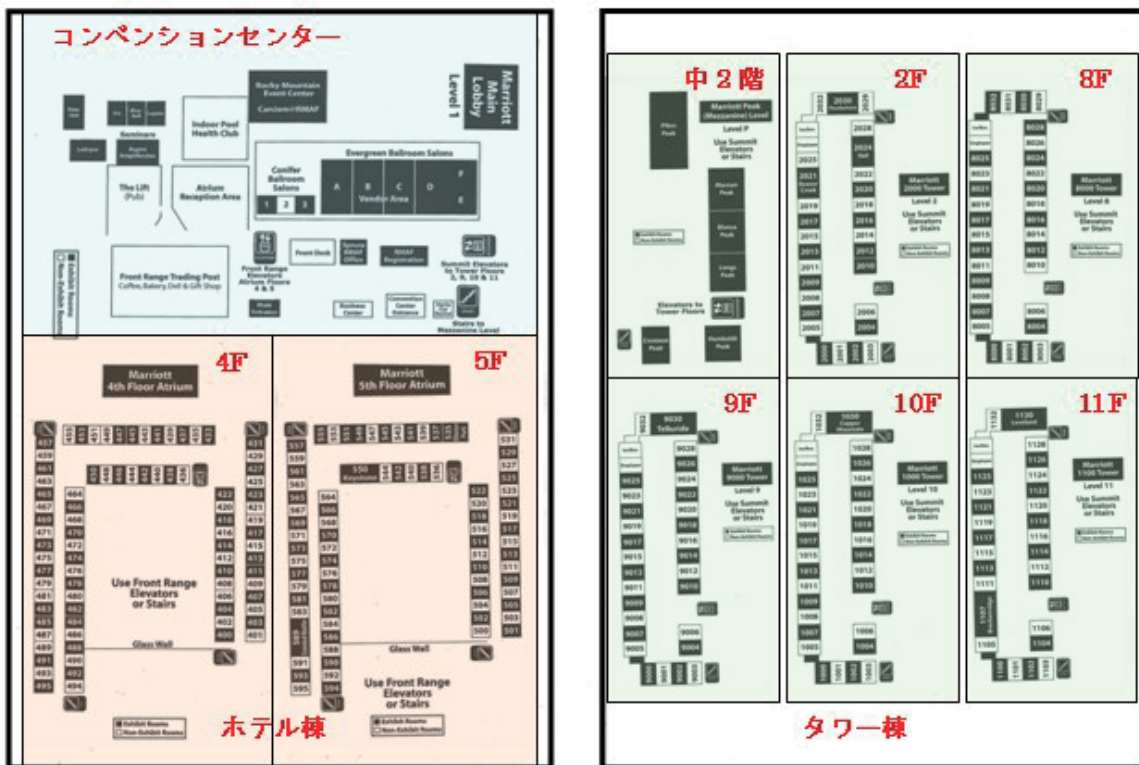
正直はじめはダウンタウンから離れているし、あまり聞いたこともなかったショーなので人もまばらなのではと思っていたのですが、それはとんだ大間違い。3 日間滞在して、そのお客様の多さには驚きました。



会場のマリオットホテル



屋内の広場から見たホテル棟



RMAF2010 フロアマップ

3. 会場レポート

それでは RMAF の会場レポートをして行きたいと思います。

まずコンベンションセンターの正面入り口を入ると、ボランティアの方々に運営されている受付コーナーがあります。ここでエントリーをしてバッジを受け取れば会期中はすべてのエリアを行き来することができます。ちなみに RMAF2010 の入場料は 3 日間の通し券で \$25 でした。また受付の近くには毎日夕方のミニコンサートに使用されたグランドピアノや宣伝用のレーシングカーなども展示されていました。



受付コーナーの様子



夕方のピアノコンサート



レーシングカーも登場

➤ ビンテージオーディオ健在

あえてビンテージという言葉を使わせていただきましたが、会場を回っていて特に印象に残ったのが古くからオーディオファンの方には馴染みの深いターンテーブルや真空管を使ったアンプ、更にはオープンリールのテープマシンなどが色々な部屋でデモされていたことです。

日本でもアナログレコードの人気は根強いものがあり、最近ではその生産量も伸びていると聞きます。アメリカでもその人気は同様に、あるいはそれ以上のように沢山の部屋で見ることができました。RMAF の会場では音楽ソフトの販売も行われていたのですが、CD やスーパーオーディオ CD に並んで、というかそれ以上のスペースにアナログレコードが並べられ人だかりが出来ていたほどです。たまたま話をすることができたアコースティックサウンドの Chad Kassem 氏によると、同社の音楽ソフトの売り上げは順調で、特にレコードのセールスは好調とのことでした。自社の倉庫スペースを広げただけでなく、レコードのプレス工場を買うという話もされていました。

真空管も未だに人気の高いアイテムですが、従来のアンプなどに使われるだけでなくスーパーオーディオ CD やブルーレイディスクなどを再生するユニバーサルプレーヤーに使用しているメーカーもありました。



ターンテーブルの展示



テープマシンとターンテーブル



真空管アンプの展示

また写真にあるようにオープンリールテープレコーダーもいくつかの部屋でデモが行われていて驚きました。まさにビンテージの機材をリストアし、それだけにはとどまらずにオリジナルにチューンナップしてかなりの高額（中には\$9,000、約75万円）で販売していたところもありました。かなり派手な色使いなのも、アメリカらしいと言ったところでしょうか。。。



カラフルなテープレコーダー



リストアされたテープマシン

➤ PC オーディオ/ネットオーディオの台頭

最近日本でもこれらの言葉はオーディオファンの間では特に話題になっていますが、事情はアメリカも同じようです。RMAF2010 でもかなりのメーカーが関連商品のデモに力を入れていました。

コンピュータやネットワークに接続するというので、従来のオーディオメーカーだけでなく新々の会社や異業種のメーカーからの展示も見受けられました。特に USB 接続の DAC（デジタル⇒アナログコンバータ）はその数も多く、96kHz/24bit 対応が主流の中 192kHz/24bit まで対応したモデルも発表されていました。RMAF2010 直後日本のオーディオショーで発表・展示されたモデルもありますので、目にした方もいらっしゃるでしょう。

老舗ブランドもこの流れに対応して行こうと新商品が展示されていました。McIntosh はミュージックサーバーを発表し、積極的にデモを行っていました。また 2011 年 1 月号の JAS Journal でご紹介した“Amarra”もハイレゾ音源を使って、Q&A を交えたセッションを行っていました。

会場内ではプレーヤーとして Macintosh（こちらはコンピュータのマッキントッシュです、念のため）を使用しているところがいくつかありましたが、そのうち半分以上で“Amarra”が使用されていました。ちなみに私が数えた限りでは再生ソースとしてコンピュータを使っていた部屋は 50 以上あったと思います。そのうち Mac は 20、Windows は 15、その他が 15 くらいでした。こういった状況を見るとアメリカでも PC オーディオ/ネットオーディオはオーディオファンの中で話題になっていることが伺えます。



192kHz 対応 USB DAC



ミュージックサーバーデモ



Amarra を使用したシステム



ミュージックサーバー

➤ 高音質音源（ハイレゾ音源）の状況

再生ソースが多様化する中、CD クオリティ以上の PCM 音源はアメリカでも注目されています。前号でお伝えした HDtracks は自社のブースに置いてハイレゾ音源のデモを行っていました。またこうした物に加え、DSD を使ってデモを行っている部屋もいくつかありました。アンプやスピーカのデモの為に DSD 音源を再生するのですが、KORG の MR-2000 を使ったり、プロ用の Sonoma システムや Pyramix というレコーダー／ワークステーションなどから、直接ファイルを再生しているところもありました。

DSD のサラウンドデモを行っていた IsoMike, EMMLab, Sony の共同ブースではナットキングコールのマスター音源（実際にはサラウンドではなくフロント 3ch です。オリジナルの録音が AMPEX の 3トラックレコーダーで録音されていたそうです）をワークステーションからの再生で聞かせていただきましたが、1950 年代の録音とは思えない音の生々しさ、新鮮さには鳥肌が立ちました。まさに目の前でナットキングコールがバンドをしたがえて歌っているかのようで、たいへん貴重なものを聞かせていただいたと思います。

ちなみにこのアルバムは前述のアコースティックサウンドからスーパーオーディオ CD とアナログレコードで発売されているようです。オリジナルテープに限りなく近い音を聞きたいのならスーパーオーディオ CD をぜひお勧め致します。

➤ アメリカのヘッドホン事情（RMAF2010 の場合）

日本では携帯音楽プレーヤの普及に伴い、付属のヘッドホンではもの足りず自分にあったヘッドホンで音楽を楽しむ人が増えています。ヘッドホン祭りが開催されているくらい日本のマーケットは活況を呈しているといっていでしょう。

一方アメリカの事情ですが、以前アメリカは国土が広く通勤や通学時にヘッドホンで音楽を聴く人は都市部に限られ、それよりもカーオーディオの方が需要が大きいと伺ったことがあります。実際のところはどのようなのでしょうか。。。

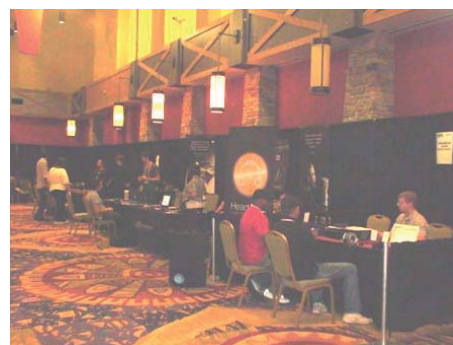
アメリカ全般を考えるとその通りなのかもしれませんが、RMAF では事情がちょっと違いました。ホテル内のバスケットボールが出来るほどの大きなホールすべてがヘッドホンのデモ会場となっていたからです。オーディオファイル向けのショーですから、カジュアルなも



再生に MR-2000 を使用



DSD サラウンドのデモルーム



ヘッドホンのデモに聞き入る人たち

のよりは高音質の展示が多かったですが、それでもその規模には驚きました。各社工夫を凝らし、プレーヤから直接再生するだけでなくきちんとヘッドホンアンプなどを用意し、純粋にヘッドホンのデモを行っていました。アメリカでもオーディオファイルの方々のヘッドホンに対する興味はかなりのものであることが感じられました。

4. 最後 に

以上、RMAF2010のレポートをお届け致しました。

かつてオーディオショーと言えば日本メーカーの出店が目立ちましたが、RMAFの会場ではいくつかのメーカーのみでした。その代わりという訳ではないのですが、中国メーカーのデモルームもありましたし、アメリカの会社ですがインド人のエンジニアの方が一生懸命に説明している部屋もありました。

あまりまだ日本では広くは知られていないショーかもしれませんが、オーディオファイルの方ならかなり楽しめるショーだと思います。場所も、他に誘惑の多いラスベガスなどではなくデンバーというのもいいと思います。遠くに雄大なロッキー山脈を眺めながら、どっぷりとハイエンドオーディオに浸る旅というのもまた楽しいのではないのでしょうか。今年の開催は10月14～16日のようです。

【RMAF2011のサイト】

<http://audiofest.net/2011/index.php>